



(写真はイメージです)

妙の光

通刊68号 復刊47号

2004年9月27日(季刊)

角田山妙光寺 発行

新潟県西蒲原郡卷町

角田浜 〒953-0011

TEL 0256-77-2025

『二重塔』修復落成記念号 名月

旧暦八月十五日夜の月で中秋の満月をいい、懐かしい言葉になつたが十五夜ともいう。一方、明月は季節を問わず、曇りなく澄み渡つた満月をいうそうだ。

境内では東側の山の端から出る大きな満月を、松の木越しに見ることができる。子供のころ二階の廊下に団子とススキの穂を供えて、月見をした記憶がおぼろげにある。今そんな家庭がどのくらいあるだろう。

月見の行事は中国の中秋節がもとだが、日本でも古くから満月に稻の初穂などを供える農耕行事があつた。そこに月の出の前に仏様を拝むことができると信じた仏教信仰が加わつたそうで、月見も仏教行事ということになる。今年は九月二十八日。虫の声を聞きながら静かに名月をめでる、そんな風雅なひとときを過ごしてはいかが。

しみじみと立ちて見にけりけふの月

鬼貫

名月や畠の上に松の影

其角

三重塔の由来

小川英爾

一年にわたる修理を終えて、色鮮やかに仕上がった三重塔が境内に戻ってくる。期待していた作られた年代や作った人などの記録は、残念ながら解体作業では一切出てこなかつた。それでもその構造やこれまでの修理の痕跡などから、想像できることも多くわかつたようで、解体修理の技術指導に当たられた専門家から報告していただく。小ぶりながら本格的に作られており、新潟県の文化財に指定されるよう解体修理報告書にまとめ県に提出することにしている。

はつきりしていることは元々妙光寺にあつた物ではなく、同じ巻町の福井集落にある曹洞宗の隆崇寺から移築したと言い伝わってきたことだ。それがいつの時代で、なぜ宗派の違う寺からなのか、これが不明だつた。記録は出てこなかつたが、専門家による聞き取りと文献調査でこれも想像の域を出ないが、おぼろげながらわかつてきらしい。

また今回の修復を決める直前に判明したことだが、作られた当初は内部、外部ともに総金箔で仕上がつてその中に塔を建て、水面に塔が写る風景にしよう

いた。規模はこちらがずっと小さいが、京都の金閣寺や平泉中尊寺の金色堂のように、外も中も金色に輝いていた。そのせいか妙光寺に来る前、隆崇寺にあつたころは上屋がかかっていたが、妙光寺に移してから屋外で風雨にさらされたから破損がひどくなつた。この言い伝えも実証されることになる。妙光寺に移築した時点で、おそらく外部の金箔は見る影もなかつたのではないかだろうか。金箔がしつかりしていればいくらなんでも屋外には置かないだろうから。

今回の修復では当初の金箔に復元するかどうか関係者で協議した。その結果あまりに費用がかかることと、さらにそれを保護する上屋となる鞘堂を建てなければならず、費用と建てる場所の確保、そして将来の管理保存に問題があるとのことで、外部の金箔復元は止めにした。鞘堂に納めて限られた人に拝観してもらうのではなく、これまで通り境内に置いて、より多くの人に拝んでいただきたい。そのために新たに池庭を作つてその中に塔を建て、水面に塔が写る風景にしよう

となつた。元々境内の一部が低地で、そこに山からの地下水が集まつて庭木に悪影響が出ている箇所があり、いつか池にしてはどうかとの案があつた。土留めの石も新たに買わなくとも十分ある。こうした経緯で、妙光寺の景色を作る作業に長年携わつていただいている、造園設計士の野澤清先生の出番となつた。

ところがこの池を作るのが難工事だつた。遅くとも五月中に庭木を植えなければ木が夏を越せないから、逆算すると二月には工事を着工し、三月には池を作らなければならぬ。しかしこの季節は山の雪解け水で地下水の水位が一番高い。そこで地下水を抜きながら、しかも池を形作る防水マットに影響が出ないよう、将来的にも地下水が抜ける暗渠排水の設備も同時に作る必要が出てきたのだ。今年は春の訪れが早く二月に着工できたのは救いだつたが、最終的に大きく予算を超過する原因のひとつがここにあつた。

修復後も屋外で風雨にさらされることとなつた三重塔には、それなりの保護策をとらなくてはならない。そこで銅版屋根では海からの潮風で傷みが早いから、今もつとも新しい技術の屋根材といわれるチタン合金で葺くことにした。材木は腐食した部分を全て新しいヒノキ材に取り替えた。これには現代の化学薬品の防腐剤でなく、胡粉塗り、丹土塗り、松煙塗りといった伝統技法で上塗りをして保護する方が長持ちするそう

で、緑や朱の古代色で仕上がる事になつた。内部は原型の金箔を張るから、普通には見えないところが立派に仕上がる事になる。一体そこに何を納めるのか。

そもそもこの三重塔や五重塔は、お釈迦様のご遺骨を納めたお墓だつた。最初のころは土饅頭の形だつたが、お釈迦様を慕うインド各地の王様や弟子たちによつて記念碑的な性格を帯びてきたから、煉瓦で大きくさらに広く各地で作られて、それを中心に仏教が発展していくことで、お寺の象徴のようになつた。仏であるお釈迦様の遺骨（舍利）を納める塔だから、仏舎利塔（ぶつしやりとう）とも言う。でもお釈迦様のご遺骨はそんなに沢山ないから、火葬した遺灰、遺髪、遺品等を代わりに納めているところが多い。やがてそれが日本に伝わつて、日本の建築様式で建てられるようになつたのが、五重塔や三重塔、ときには十三重塔ということになる。

日本で最も古い五重塔が飛鳥時代に建てられた奈良の法隆寺の塔で、それ以降数多く建てられたが、明治の仏教弾圧運動で相当数焼かれたらしい。江戸時代以前に建てられた五重塔で現存する物は全国に二十二基あり、日蓮宗にはそのうち池上本門寺、中山法華経寺、佐渡妙宣寺、羽咋妙成寺の四基ある。身延山久遠寺では明治時代に焼失したものを再建したいと、先ごろ寄付金集めが始まつた。全国的には今も数が増えている

そこで、なかにはコンクリートや、強化プラスチック製もあるらしい。

三重塔となるとこれは全国に大小新旧沢山ある。ただ三重塔は五重塔を簡便に縮小した物ではなく、建築上数少ない五重塔を作る上で先行した技術の基本を示すと思われる貴重な物が多いそうだ。妙光寺の三重塔も小さくて特別立派には見えにくいが、県の文化財の可能性が高いというのは、その建築技術が優れているからということらしい。むしろ巨大でないところが妙光寺にふさわしいと思つてている。

この妙光寺の三重塔には以前、仏舎利の代わりにお経が納められていた。そこで今回も新しく、日蓮宗のお経『法華經』全巻を納めることにしている。お釈迦様の教えを象徴し、境内で誰からの目にもふれ、お参りされる方々の心に安らぎをあたえる、そんな塔になることと願つてている。

これほど大切な三重塔をなぜこれまで傷むに任せて放置してきたのか。それは先に修理しなければならない物が沢山あって、とても手が回らないからだった。それが皆さんのおかげで客殿、本堂の建て替えが完成し、さらに水はけの悪い境内の排水設備も整つてひと段落した。三重塔の傷みも気になつていたが、すぐ困ることでもないし、多額の資金の目処もないから次の代の住職の仕事に残そなど半分冗談で言つて

いた。ところが昨年春先の突風で、屋根の上についたくし团子みたいな相輪が途中と根元から折れてしまい、雨が塔の内側に直接入り込む事態となつた。これでは傷みが急速に進んで修復もできない状態になつてしまふ。

このころ東京の小黒トメさんからのお申し出で、道路から妙光寺に入る右手の住宅地の一角を購入し入口を広げて整備する計画が進んでいた。しかし土地の所有者が話しには応じてくれたものの、提示された価格が高くて交渉がこう着状態にあつた。思案しているところに三重塔の問題が起き、それなら土地購入は見送つて塔の修理に協力しましようとした小黒さんからお話をいただいた。以後緊急役員会、業者選定、契約、着工と、とんとん拍子に進んだという次第。塔が大きく壊れるタイミング、資金のタイミング、話があまりにできすぎていて仏様のお計らいとしかいいようがない。

この間もうひとつ驚かされたことがある。正直などころ傷みが進行していたから普段見て見ぬふりをしていたし、檀徒の皆さんもあまり口に出しては言わなかつた。ところが修復で仏具店の工場に運んで境内になかつたこの一年間に、十人以上の人から「こちらに三重塔があると聞いて伺つたんですが……」と言う声をかけられたのだ。そのほとんどが東京、神奈川、京都、

といつた遠方からの人だった。こちらが知らないあいだにかなりの人が塔を眺めたり、写真を撮ったりしていたことを知らされた。そんなこともあり、改めて修復にいたつことを喜んでいる。

そして小黒さんのはかにもいつもながらに、沢山の方々のお力添えで完成することができた。周囲の池庭は檀徒の本多保司さんが中心になつて、小泉、鎌田ら妙光寺の人手で作り上げたから専門業者に発注する半分の費用でできた。木の植え込みには設計の野澤先生の教え子の皆さんが千葉、東京、福岡各地から集まつて手伝ってくれた。出入りの古井石材店からは塔の土台石を寄付していただいた。建築設計の中澤先生には計画当初から、相談に乗つていただいた。お付き合いの長い山崎完一さんは古建築の専門化で文化財行政にも詳しく述べと技術指導をいただいた。心から感謝申し上げます。

これで数年後に植えた木が根付き、塔が周囲になじむとさらに境内の趣が増すことになる。新緑や、秋の紅葉のなかにたたずむ三重塔。池に植えたカキツバタが咲く頃はどうだろ。「池に植えてください」と、二年前の蓮で有名な大賀ハスの種を届けて下さった檀徒の方がいる。開花には順調にいつて三年かかるそうで楽しみだ。冬の雪景色もいいかもしれない。表紙の写真はイメージだが、妙光寺の塔もライトアップしてあ

るので、月とのどりあいも見ることができるだろうか。夕焼けを背景にした塔も……。四季折々に楽しんでいただけることと思う。

でも先に書いたように三重塔は境内の飾り物ではない。お釈迦様の教えを象徴するのが三重塔で、花に例えればハスの花である。境内は心穏やかに、安らぎのある仏様の世界を表している。お寺はその教えを伝え発信する場であり、皆さんのが心を癒し修行される道場である。そこが公園や公共施設と大きく違うところである。その道場が皆さんのお力で整備され、数多くの方々が集まつてくださる妙光寺は本当にすばらしいと心から感謝している。



妙光寺三重塔の足跡

解体修復工事監修担当

清水徹



新潟県内には、重要文化財である乙

宝寺三重塔（中条町）をはじめ、五智国
分寺三重塔（上越市）など、幾つかの三
重塔があるが、当妙光寺の三重塔はこ
れらとは一風変わった趣を持つ。

妙光寺三重塔は、高さが約六mと前
記の三重塔に比べて小さい。これより
更に小規模な塔として高さ約四mの海
竜王寺五重小塔（国宝・奈良市）などは
あるものの、一般的な高さの塔と小塔
との間に位置する中規模の塔で、全国
的に見ても稀な例であり、妙光寺三重
塔の最大の特徴であるといえる。

規模は小さいものの、その構造は建
築物としての考え方について基づいて
おり、非常に良質のヒノキ材を用いて、
基本的な構造に関しては大きな塔と何
ら変わりのない骨格を作り出してい
る。また、意匠的にも優れており、軒部
分には四手先の組物を用いて、格式の高

さと深くて美しい軒を演出している。

現在、妙光寺三重塔は解体修理中で
あるが、筆者らが行った調査の中では
いろいろなことが分かってきた。みなさ
んが御存知の塔は銅板葺きで木肌がむ
き出しのものだが、建設当時は全く異
なった外観であつたと思われる。外部
の柱・長押・桁などは黒漆を塗つてお
り、壁・軒天井には金箔を貼り、高欄
や建具は朱塗りの仕上げであつたこと
が痕跡から明らかとなつた。内部の柱
や壁にも金箔を貼り、当初は豪華で莊
厳な仕上げであつたと思われる。

当寺の三重塔はかつて、巻町福井の
隆崇寺にあつたものを当地に移築した
と伝わる。移築に際しては、塔を一層
ずつに分解して運び、当地において組
み上げたことが考えられるが、組み上
げるための接合部分に和釘（角釘）が用
いられていた。この和釘（角釘）は、そ

の使用時期が一般に明治十年前後まで
とされており、それ以後は洋釘が主流
となる。よって、移築時期はこれまで
不明とされていたが、少なくとも明治
十年前後には当地に移築されていたこ
とが分かる。

修理に関しては、文化的価値を損な
わぬよう、また、後世へ伝えて行くと
いう観点から、基本的な構造には手を
加えず痛みのある所のみを修復し、今
後長きにわたって存続させられる塔で
あることに努めた。平成十六年秋には
解体修理を終え、再び妙光寺の本堂前
にその姿を現す三重塔であるが、新た
に整備された庭の景観と共に、その
堂々たる姿を見ることは非常に楽しみ
である。

『三重塔』修復費用を寄付

東京都 小黒トメさん（七十九才）



「だから」との理由で反対された。育ててもらった恩があるからと、生涯独身でいることを決意する。そこで老後まで安泰に生活を支える方法を考えて、会社を辞め退職金を基にアパート

経営を始めた。女性のひとり身でそれなりに苦労もあつたが、時流にのつて順調にやつてこれて現在にいたつたといふ。

その間養父母を看取り、さらにやはり子供がなく事情のあつた養母の弟も看取り、三人分二軒の墓を守つてきた。しかし自分にも跡継ぎがないから、その後の墓守を思案しているとき、偶然見たNHKテレビで『安穩廟』を知つた。この養母の生家が角田浜近くの村で、小黒さんも疎開した夏、畑の西瓜を食べて角田浜の海に遊んだこと。

小黒さんは新潟県の寺泊町で生まれた。三歳のときに生母が亡くなり、東京の母方の叔父夫婦に子供がなくそこへ幼女に出された。なかなか厳しい養父母で、つらかつた思い出の方が多いという。

成長して会社に勤め結婚を考えた相手もいたが、養父母の「私たちの世話ををしてもらうためにあんたをもらつた

の駅前からバスに乗つて、当時は穴ぼこだらけの道を走るので席から放り出されて土地の人々に大笑いされた、そんな思い出がよみがえつた。懐かしさと不思議な縁を感じて、早速申し込んだ。今三人の遺骨を安穩廟に移し、自身も「死んだら妙光寺の境内でふわふわ魂になつて過ごすのが楽しみ。そのためにもお寺が少しでもきれいであつて欲しいから、節約して寄付したいと思った」という。

一人暮らしだから、長期滞在型の温泉バスタツリーにたびたび参加して、その仲間たちとの交流を積極的に楽しんだり、税務署の青色申告会の役員としてカラオケにも行つたり。苦労の中にも明るさを忘れない人柄だから、どこでも人気者だ。

昨年の授戒会で戒名を受け、妙光寺の檀徒として毎日のお仏壇参りを欠かさない日々でもある。

成長して会社に勤め結婚を考えた相手もいたが、養父母の「私たちの世話ををしてもらうためにあんたをもらつた

日蓮聖人第七一二三遠忌御会式法要 『三重の塔』修復落成慶賀音樂法要

ご案内

十月三日(日)、『三重塔』の修復工事完成を仏祖三宝へのご報告とお祝いの音樂法要を、日蓮聖人第七二三回忌の法要(お会式といいます)にあわせて當みます。法要には式衆僧侶の他に佐渡島を拠点に世界で活躍する『鼓童』の中心メンバーと、踊りの『花結』が出座して塔の周りを舞い、御仏の淨土の世界を現します。

そもそもは昨年十月の『四菩薩像開眼法要』に、『花結』の小島さんが縁あって飛び入りで仏様の前で幽玄に舞い、参列の皆さんに大きな感動を与えてくれたのがきっかけです。塔の落慶法要にはぜひにとなり、このたびの運びとなりました。詳細は別紙ご案内の通りです。ここでは『鼓童』と『花結』のプロフィールをご紹介します。



藤本吉利(ふじもと・よしかず)

1950年、京都府生まれ。1972年「佐渡の國鬼太鼓座」に入座、1981年「鼓童」創設に参加し、以来30年間、太鼓奏者として数々の舞台に立ち、大太鼓や屋台囃子といった舞台のクライマックスを飾る。現在、鼓童の最年長奏者、53歳。

前ですが、それは大太鼓の響きが母親の胎内で聞いた最初の音、心臓の鼓動につながることからきたものです。そしてそこには、「童」のように何ものにもとらわれることなく、無心に太鼓をたたいていきたいという願いがこめられています。

『鼓童』(こどう)

太鼓を中心とした伝統的な音樂芸能に無限の可能性を見いだし、現代への再創造を試みる集団。「鼓童」とは、人間にとつて基本的なリズム、心臓の「鼓動」から音をとつた名

山口幹文(やまぐち・もとふみ)

1954年、茨城県生まれ。1980年当時の鬼太鼓座に入座、

今年は研修生の指導や一般向けのワークショップを行うなど、幅広い活動を行っている。「鼓童」の名前の由来同様、永遠に太鼓の「童」でありたいと願う太鼓大好き人間。



笛を独学にて習得。以来、鼓童のプレイヤーとして、笛・胡弓・箏・三味線などを務める。現在は、鼓童の舞台演出や作曲を担当している。鼓童の国内外の公演ツアーリに参加するかたわら「二管風月」というタイトルでのソロコンサートも行なっている。

小島千絵子（こじま・ちえこ）

栃木県岩舟町出身。



『花結（はなゆい）』

鼓童の小島千絵子、藤本容子、琉球舞踊の金城光枝が中心となつた唄や踊りのユニット。地域公民館などでの公演活動のほかに、遊びながら心と身体へ呼びかけるワークシヨップも行なっています。

「結（ユイ）」とは田植えや屋根の葺き替え等、一家の労働力では不足する労働について、隣近所や気のあつたもの同士で結ぶ間柄の意味です。

何かの縁で佐渡に集まつた三人が、互いのものを持ち寄つてできたこの会です。踊りたい人、歌いたい人、それを助ける人、そしてそれを見て楽しんでくださる皆様も、みんな「結」仲間。

花の盛りの三人娘の「うどういあしひ、うたいあしひ＝踊り遊び、歌い遊び」
どうぞ皆様もご一緒に…。



金城光枝（きんじょう・みつえ）

沖縄県那覇市出身。

1979年太圭琉華の会・佐藤太圭子氏に師事、琉舞を通して鼓童と出会う。

沖縄タイムス芸術選賞最高賞を受賞したのち結婚をきっかけに佐渡に在住する。「花結」をはじめ村祭り等への参

最近の演目「花八丈」では、踊りの要素を取り入れた太鼓に新境地を見出すべく、挑戦中。また、鼓童の舞台とは別に、歌と踊りを中心とした女性三人のユニット「花結」や、ソロでのパフォーマンス「ゆきあひ」にも、新たな出逢いを求めて、意欲的に表現の場を拓げている。

1976年佐渡に渡り、当時の鬼太鼓座に入座、民俗舞踊の世界に出会う。1981年の鼓童創設に参加。以後、数少ない女性メンバーとして太鼓中心の舞台の中で、独自の舞踊の世界をきりひらいている。

宮崎正美（みやざき・まさみ）

生年月日：1974年4月15日
出身地：熊本県水俣市

七・十三新潟県水害被災者

義援金募集の報告とお礼



七月十三日、新潟県の中越地方を中心に降った集中豪雨で数多くの方が被災されました。妙光寺の檀信徒、安穩会員で亡くなられた方こそありませんが、十件余りのお宅に床上床下浸水の被害がありました。また再三テレビで報道されましたが、堤防の決壊で一瞬のうちに本堂、庫裏、鐘楼堂一切が流された妙栄寺は、妙光寺と昔から繋がりの深いお寺です。三メートルの水が一気に押し寄せたそうで、まるで大津波。偶然寺に誰もいなかつたのが不幸中の幸いでした。

そこで被災地の三条市、中ノ島町を除いた檀信徒、安穩会員の皆様に、被災された方々への義援金のお願いをさせていただきました。その結果左記の様に多くの方々から暖かいお気持ちをお寄せいただきました。ここにご報告させていただき、厚くお礼申し上げます。

募金件数	檀信徒	二一七件。
安穩会員		二九七件。
合計		五一四件。
募金総額		一八六万七千三百円。

(九月十日現在)

件数は右の通りですが、夫婦連名、「子供からの分も入っています」との家族連名の方もかなりありました。数の力はすごいもので、これほど大きな金額になりました。この金額に妙光寺からの分を加え、被災された檀信徒、安穩会員全員への義援金と、日蓮宗新潟県東部宗務所を経由して届ける、県内的一般被災者と妙栄寺への義援金に分けてお届けします。重ねてお礼申し上げます。



義援金に同封されたお手紙がたくさんありました。その一部を紹介します。

少しですがお役立ていただければ幸いです。本当に大変だと思いますが、お身体大切に、復興を心よりお祈り申し上げます。

この度は大変なことでしたね。皆で助け合うのはとても良いことだと思います。私共もわざかばかりで心苦しいのですが、送らせていただきます。どうぞよろしくお願いします。

被災された方からのお手紙です。

本当に大きな災害で皆さん苦しんでおられ、ご苦労いかばかりかと案じております。こちら（名古屋）でも数年前この地で大雨で大変な被害があり、私の家は少し高台だつたために難を逃れました。水が引いてからは仕事を通してお手伝いできました。が今思えばこのときの水の量を新潟の水はるかに超えた水害で、お気の毒でなりません。せめて後片付けだけでも一日も早く終えて、ひと休みして、ただきますようお祈りしています。

水害のときはお見舞いの電話をいただき本当にありがとうございました。家中からはようやく泥がなくなりましたが、臭いが消えません。現在も焼き出しを受けています。一日中片付けに追われていますが、周囲の励ましはとてもありがたくうれしいことでした。重ねてお礼申し上げます。人や車の流されるのを目の当たりにした恐ろしさは頭から離れませんが、その田畠で今は稻穂が色づいています。（八月十五日付）

親戚、友人など四世帯が被災し、自衛隊のヘリコプターで救助された方もおりました。当方無力なればどううにしてさしあげたらよいやらと、本当に戸惑い心配の毎日でしたが、少しづつ心も住居も回復しつつあるようです。義援金の件、些少で申し訳ありませんがどうぞお納めください。

（一ヶ月近い避難所生活の後、お盆前に仮設住宅に入居）現仮設住宅には一年半から二年程度お世話に相成った後、私共の旧住宅を鉄筋住宅に新築される事と相成りますので、夫婦二人でそのことを楽しみに日々暮らしております……。（八月二十二日付）

次号に続報の掲載を考えています。

お盆参り賑わう

お盆・施餓鬼法要

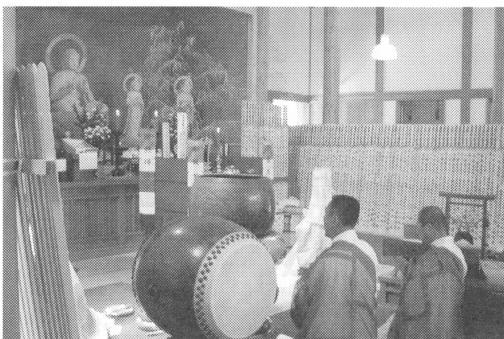
例年八月一日のお盆参りですが、今年は日曜に重なったためにいつもの倍近い人出で賑やかでした。この日は早くから本堂での施餓鬼法要が始まります。平日だと出勤前にお墓に参る人で早朝の時間帯が混雑します。それが日曜のせいで混雑の時間が十時近くになります。駐車場に車が入りきれず参道も行き交う人で一杯と言う事態もありました。施餓鬼法要も多数の方がお参りされ、昨年から安穏会員にも卒塔婆供養のご案内をしたので、塔婆の数もお参りの方も例年にはない盛儀でした。

自家用車のない時代には、家族そろつて夜明け前に家を出て途中で朝飯を食べ、一時間、二時間歩いて寺に着いて

て墓参り。

それから若い人たちは海水浴に行き、老夫婦は寺で法要にあります。日過ぎて、夕方涼しくなってから皆で家路につく。こうした子供時代の思い出を持つ人もまだたくさんいます。

最近は会社勤めの人が多くなり、平日では家族そろつての墓参りが難しくなりました。中には「一年に一度だからこの日は会社を休むし、会社も承知



施餓鬼法要



岩屋七面宮祭礼

八月十九日、岩屋の七面大天女の例大祭を行いました。日蓮宗の守護神のひとつとして祀られる『七面大天女』は、妙光寺裏手の岩屋が発祥の地だとの伝説があります。一年を通じて毎月十九日朝岩屋でお勤めしていますが、八月に大祭を催しています。同時にお盆の終わりの意味合いもあり、妙光寺ではこの日に精霊棚をはずします。

檀信徒の他、新潟市などからも信者が参拝して本堂での読経、お加持の後、行列で岩屋に向きました。昼でも暗い岩屋の中たくさんのロウソクの火が灯り、皆で唱えるお経とお題目が響きました。

してくれている」という方もいます。そこに、「一日にこだわらず八月の第一日曜にしてはどうか」との声がありました。いい案だと思いますので、今後皆さんのご意見を聞き役員会議で相談していきます。

台風被害

台風、水害と今年は自然災害の多い年です。妙光寺の水害はなかったもの

高所での伐採作業



途中から折れた松

の、八月末の台風十六号の風で境内の樹木の被害がありました。山門脇の松の老木が一本、途中から折れ、また墓地の山で雑木の高木が折れて一部墓石にかかりました。順次クレーン車を使って撤去しますが、高所での伐採作業、特に昨今は伐採した樹木の処分が大変です。

こうしてまた古い木が減りました。松くい虫と酸性雨の影響でしょうか、古い木が弱っています。木の勢いを回復する方法もあるそうですが、とても費用がかかります。さらに海岸との間に植林された松林が、これも松くい虫で一部全滅状態です。そのため海からの塩分を含んだ強い風が吹き、境内の樹木をさらに傷めます。まだ九月というのに葉が茶色になつて枯れ落ちている木が多いのも、そのせいです。

再度防風林の復活を行政当局に相談し、境内には風上方向に塩風に強い常緑の木、タブや椿を増やしていくことを思案中です。

住職のラジオ出演

B S N 新潟放送ラジオで人気の長寿番組『ミュージックポスト』に生出演しました。フェスティバル安穏を紹介して、とのことで十分程度の予定でしたが、パーソナリティの大倉修吾さんは面識もあり、話が弾んで結局番組終了まで一時間、マイクの前で座り続けました。打ち合わせなく突然妙光寺に電話をかけられたり、住職夫婦の馴れ初めまで話させられるなど、赤面のいたりでした。

テレビ撮影順調に

これまでにお伝えしていますが、NST新潟総合テレビが取材を続けています。三重塔の修復、安穏廟、その他季節の行事など一年間を通して収録し、妙光寺の活動を紹介するものです。十月に新潟県内での放送ですが、日時改めてお知らせします。



フェスティバル和やかに



散華の花びらが風に舞う

第十五回目の「フェスティバル安穏」が盛会でした。県内はじめ遠くは北海道、東北、関東などからの安穏会員を中心に、檀信徒、一般の人、近所の住民等々参加者名簿に二七一名の記載があり、スタッフを含めると三五〇人近い人が集まりました。一般には安穏廟の申し込みを予定している人、ホスピスボランティア会の人たちは毎回テーマに関心があつてずっと参加しているとのことでした。また十五年が経過して世代交代が進み、若い方や子供連れの夫婦が目に付いたのも今回の特徴です。

この日は厳しい暑さもひと段落して、日差しは強いものの木陰では爽やかで心地良い風が吹き、夕刻の法要のときは風が強かつたのですが日も傾い



地元角田諸中による太鼓供養

て申し分ない天候でした。これまでパレティーでの雨はありますが、法要が雨でできなかつたことは十五年間一度もありません。
内容は今年も掲載された『仏教タイムズ』誌を別紙同封します。この新聞

は週刊で、主に伝統仏教の各宗派を対象にしたもので。今回初めて取材に来た若い女性記者が、パーティー後新幹線に間に合わなくて東京に戻れず困っていたところ、参加した母娘に声をかけられそのお宅に泊めていただい



澄みきった声の女性コーラス

た。さらに孫のお嫁さんにどうか、という話まであったとの裏話までありました。

二日目の日程に個別相談会を設けましたが希望者がなく、宿泊参加者、改めて出かけてこられた方、スタッフ、



俵萌子さんの講演



本堂前の院庭まで一杯の人

相談担当者みんなで五十人ほどが、葬儀を誰に出してもらうかななどについて語り合いました。

参加者も多く、法要へのロウソク献灯も二六三本と過去最高でした。全体にスマーズな運営で内容も好評だった

が暗い、宿の設備が悪かったのででき
スムーズに、モニターテレビの音が出
内をゆっくり散策する時間やトイレ休
憩時間が足りない、受付けをもう少し
と思われます。しかし日程が込んで境
内をゆっくり散策する時間やトイレ休
憩時間が足りない、受付けをもう少し
スムーズに、モニターテレビの音が出
ていなかつた、パーティ会場の照明



交流パーティーのハイライト“安穩甚句”での踊りの輪

フエスティバル安穩十五回を記念し
て、安穩会員を中心にアンケートをお
願いしました。多くの方にご協力いた
だき、参考になるご意見を沢山頂戴し
ましたこと厚くお礼申し上げます。ご
回答のなかつた方の「満足しているし、
いまさら意見も要望もないから」との
声を聞いて、なるほどと受け止めてい
ます。

フエスティバルの資料として当日に
報告しましたが、同じもので代表的な
回答を要約した抄録をお届けします。
全ての集計は A-4 で一六ページに及
びますので、ご希望の方には実費でお
送りします。恐縮ですが印刷経費五〇
円と送料一二〇円を切手で同封お願い
します。インターネットでの送信です
と無料でできます。ホームページの連
絡窓口でお知らせください。

ればお寺に泊まりたい……等々の声が
あつたと、スタッフ反省会で語られま
した。今後の課題とします。

アンケート報告

フエスティバル安穩十五回を記念し
て、安穩会員を中心にアンケートをお
願いしました。多くの方にご協力いた
だき、参考になるご意見を沢山頂戴し
ましたこと厚くお礼申し上げます。ご

回答のなかつた方の「満足しているし、
いまさら意見も要望もないから」との
声を聞いて、なるほどと受け止めてい
ます。

アンケートの中にも「住職が忙し
そうだ」「お寺の敷居が高い」といつ
た声が一部ありました。心配無用で
すので、いつでもお電話ください。
他のアンケートにもありました要望
とともに、対応策を考えていきます
から。



「くいしんぼう」

小川 なぎさ

えて、作ってもらつたとうもろこし、枝豆、フルーツマト、何ヶ月も前から準備していく天候の具合でだめになつてしまつたものもあるので、これぞはやりのスローフードそのものかもしれない。

私の自慢のひとつは丈夫な胃袋！がある、ということ。元来食べることが好きなのだろうと思う。好き嫌いはほとんどないし、この夏の酷暑の時期ですら暑いからこそ食べたくなるような東南アジアの料理などを自己流に作ってはむしゃむしゃと食べていた。だか

らこんなに太つてしまつたのだろうとよく言われるのだが、丈夫でなければとても今までここでは（寺）つとまらなかつた。

家族が多い上にお客人も多く、料理の腕はともかく手早さと創作料理（冷蔵庫の残り物で…）には少しだけ自信がある。食べてくれる人がいるなら一日中台所にこもつて料理を作ることも平氣だと思う。一人のときはご飯にふりかけだけ、という食事でもしあわせ！

土地柄新鮮な食材に恵まれていること、またお寺はありがたいもので檀家さんが野菜や魚、漬物や郷土料理を届けてくださるので、本当にうれしい。自分で生産できないのだから取れたての食べ物をいただけることは感謝、感激だ。

また遠くの名物やお菓子なども加わ

つて、お寺の食卓は充実している。「ありがとうございます。おかげさまで!!」としみじみ頭を下げる。

季節の野菜がたっぷり、笹の葉が仕切りにつかわれていたりして、素朴な美しさがある。嫌がる蓮池さんだが、の愛情弁当。

この夏の安穏フェスティバルでは、地味だったがごま塩のおにぎりをお出した。角田浜産のその日の朝精米をしたコシヒカリだ。料理長の小泉さんが「今日の料理の中で一番おいしかかも」と言つたので台所のみんなで笑つた一品。またこの日のために時期を考



料理がうまくなつて、こんな素敵なお弁当を作れるようになりたいといつも思う。

行事案内

秋彼岸中日法要

九月二十三日（祭日）

午前	十時半	【安穩廟】合同法要
十一時		彼岸会中日法要
昼	十二時	おとき
午後	一時	住職説教

行事が続きますが、お彼岸は少ない人数でこじんまりと営んでいます。大勢でなくゆつくりとすごせる妙光寺を味わってください。

おときもどなたでも召し上がつていただけます。当日受付けでお申し出ください。

「ビーリング」という就職情報誌に、現代化するお寺として妙光寺が紹介されました。見開き二ページのカラーで、私と檀徒総代さん三人が本堂でにっこり笑っている写真が載ったんです。「次期住職の公募を検討中」という見出しも付けて。

話の方が先行して準備は整つていませんから検討中なんですが、近頃会う若者が皆しつかりしている印象があり、心がけていればきっときらりと光る物を持った人に必ず出会えると信じています。法事の席で檀徒の三十台後半の男性が、「僕が二十才台だつたら応募して坊さんになりたいと思ひますよ」と言ってくれたのは嬉しかったですね。

十月三日（日）

別紙ご案内の通りです。お気軽にご出席ください。



お会式・三重塔法要

。 あ
と
・
が
。 き



ことの他暑い夏でそのうえ降った雨の量も尋常でない、そんな異常な夏が過ぎて秋が来ました。体調を崩して回復が思わしくないという方も多いようですが、皆様は如何お過ごしでしょうか。しのぎやすい陽気のなかで心身を休めて、元気をとりもどしてください。

妙光寺は元々行事の多い寺ですが、今回もご報告やらご案内やらで増えました。八月一杯多忙だったために、ご案内が遅くなり申し訳ありません。これでも精一杯頑張りました。九月は農家が刈り取りで忙しいぶんお寺は時間にゆとりができますし、なにより事務担当にお願いした蓮池さんが本当によくやつてくれる所以、大助かりです。そんな訳で私共は皆元気です。

話の方が先行して準備は整つていませんから検討中なんですが、近頃会う若者が皆しつかりしている印象があり、心がけていればきっときらりと光る物を持った人に必ず出会えると信じています。法事の席で檀徒の三十台後半の男性が、「僕が二十才台だつたら応募して坊さんになりたいと思ひますよ」と言ってくれたのは嬉しかったですね。

小川